

# 同級生 交歓



東京・牛町 国立劇場小劇場にて (撮影 本社・三宅史郎)

(右から) エーザイ社長

内藤晴夫

井藤士  
淡谷まり子

文藝大  
豊竹英大夫

国立国際美術館館長

建昌哲

当時の都立小石川高校は都内有数のエリート校であったが、校風はいたって自由、受験指導などというものはまるでなかった。それをいいことに男三人は学業以外のこと、に精を出し、内藤とは京都まで日本海まわりの自転車旅行を敢行し、林(英大夫)とは、体育館裏で口を血だらけにして決闘まがいのボクシングに興じたりした。そのバイタリティーが内藤を製菓業界のホープの地位に押し上げ、林に文楽に新風を吹き込むまばゆい活躍を可能にしたのであろう。才色兼備の淡谷さんはわれわれには高嶺の花であったが、演劇少女として立った舞台を今は法廷に移し、薬害や医療過誤の弁護士として期待を集めている。詩人で美術評論家という浮世離れた仕事に向かってしまった私は、一向にうだつが上がらない。まだまだ、新しいことに挑戦する意欲だけは彼らに負けていないつもりだ。(建昌)